

JAグループ佐賀の「自己改革」

農家・組合員や地域のみなさまの豊かな暮らしを支えるため、
「自己改革」に取り組んでいます。

「自己改革」の3つの柱

農業者の 所得増大

- ・需要に基づく農畜産物の生産振興と有利販売に向けた販路の拡大。
- ・農家の経営や栽培技術の向上を支援。
- ・農畜産物を生産・販売する過程で生じるコスト引き下げ、など。

農業生産の 拡大

地域の 活性化

- ・農家・組合員や地域の皆さまが安心して暮らせるよう、地域のインフラ機能を発揮。

食と農を基軸とした協同組合としての役割を發揮し、
これら3つの柱を実践していきます。



県域担い手サポートセンター の取り組み



決算書を見せて相談する法人役員

集落営農組織の法人化支援や
集落営農法人の運営支援を
行っています。(担い手育成支援)

法人化することで、地域で協力して農産物を作ることができるため、将来的に安定した農業生産を行うことができるよ。



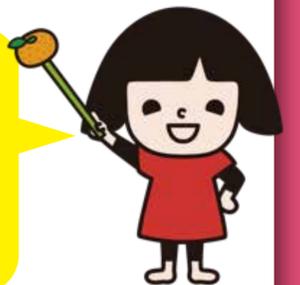
フォークリフトを導入した橋下営農組合

経済部門、畜産・酪農部門、園芸部門において、
担い手への助成事業を行っています。
(県域企画応援事業)

28年度の実績:3部門合計で、729件、246,322千円。

経済部門 フォークリフトやトラクターの導入、ユニック車のレンタルを支援

これらの機械を使うことで、肥料や資材を集約して運搬できるため、生産資材のコストを下げ、農家所得の増大を図ることができるよ。



新しく牛舎を取得した桑原さん

畜産・酪農部門 新しく牛舎を取得したり、リフォームしたりする農家を支援

牛の生産頭数の拡大と農家の健全な経営の発展を図ることができるよ。



園芸部門 園芸用のハウスを設置したり、果樹を新植・改植したりする農家を支援

県内JAの取り組み

農業者の所得増大・農業生産の拡大



受精卵を採取する獣医師

子牛不足を解消し増産(全農ET事業)

和牛から複数の受精卵を取り出して、別の和牛や乳牛に移植して子牛を増やす事業を行っています。全国的に和牛の繁殖や肥育素牛が不足している中、効率的な増産につなげることができます。

繁殖基盤の維持・強化と畜産農家の所得向上につながるよ。



選果場の新設



タマネギの選果作業

施設再編ニーズに対して、JAとして施設・地域の実態を踏まえ、将来の方向性を整理し、計画的な固定資産の取得を進めています。

JAさが広域たまねぎ選果場(佐賀市久保田町)

老朽化が進んでいたJAさが佐城地区、東部地区にあった2つの選果場を再編して、機能を集約・強化しました。効率的な選果が可能となり、多様化する販売形態にも対応できるようになりました。

タマネギでは国内初となる全量近赤外線内部センサーを備えていて、腐敗したタマネギの混入を減らすことができるよ。



JAさが杵藤地区総合選果場(藤津郡太良町)

老朽化が進んでいた武雄地区のキュウリ選果場と鹿島地区のトマト選果場、太良地区のキウイフルーツ冷蔵施設を再編整備し、総合選果場を作りました。集約によって施設運営の合理化を図っています。

最新式の選果システムや出来高精算・トレーサビリティ(生産・流通履歴を追跡する仕組み)システムを導入していて、販売力強化を図ることができるよ。



キウイフルーツの選果作業



広域物流センターからの農薬配送による物流コスト等の削減

これまで県内の購買事業を担うJAさがが直接メーカーに注文していた農薬を、JA全農の北部九州広域物流センター(鳥栖市)から取り寄せるようになりました。在庫管理を一元化することで、物流コストの削減を見込めます。また、4県分を一括で仕入れるため、メーカーとの価格交渉力も高まります。

県段階での在庫管理が不要になるため、人件費などのコスト削減にもつながるよ。

JA全農
北部九州広域
物流センター

佐賀

福岡

長崎

大分



ニーズに合った農業資金を提案

農家のニーズにあった 資金プランを提案

県内JAでは、担い手金融リーダーや農業融資相談員が活躍しています。JAからつでは、農業融資相談員が農家の経営計画や農業資金のニーズを聞き取り、資金プランを提案しています。

農家に直接会って話を聞くことで、利用者目線に立って農業経営のサポートを行っているよ。



農商工連携した規格外品を 使った加工品の開発

農商工連携や6次化による農業の付加価値増大が期待されています。JA伊万里が取り組んでいる「伊万里梨プロジェクト」では、伊万里梨の規格外品を使って、乾燥チップスやフルーツソース、ドレッシングなどの加工品を開発しています。農家が提供した規格外品を、JA伊万里の関連施設で1次加工して、地元の企業等が商品を作っています。

お店で販売できない規格外品を加工して商品化することで、農家の所得増大につながるよ。



伊万里梨のドライチップス



地域の活性化 地域のインフラ機能を発揮



植樹するJA職員



交通安全教室

金融業務や「ひと・いえ・くるま」の総合保障業務を通して、農家や地域の皆さまの安心した豊かな暮らしをサポートしています。
(信用事業・共済事業)

その他、JAバンク佐賀では植樹活動、JA共済では子どもたちを対象にした交通安全教室などを行って地域に貢献しているよ。



生活総合宅配事業出発式の様子

安全・安心な夕食食材と食品や日用品を宅配しています。(生活総合宅配事業)

高齢者や買い物が不便な人を支え、地域の健康と暮らしをサポートしているよ。



手作りの昼食を楽しむ高齢者

地域の高齢者が元気にいきいき過ごせるようにサポートしています。
(JA助け合い組織の活動)

JA助け合い組織の協力会員と呼ばれる人たちがミニデイサービスを開いて、地域の高齢者と一緒に運動したり、協力会員が作った安全・安心な弁当を提供したりしているよ。



みそ造りを体験する小学生

子どもたちを対象に、農業体験学習や地元の農産物を使った料理教室などを行っています。
(食農教育活動)

ミカンやイチゴなどの収穫体験も行っているよ。みそや豆腐作り、お盆の時期にはらくがんを作ったりもしているよ。



JA自己改革

JAグループ佐賀では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向け、JA自己改革に取り組んでいる。県内各地の自己改革の取り組みや、JA役職員と農家がともに、夢や目標に向かって取り組む姿を紹介する。

助成金で牛舎を取得

白石地区×大串修平さん

白石町の大串修平さん(28)は2016年度から実家の肥育牛に加え繁殖牛経営を始めた。JAグループ佐賀の県企企画応援事業を活用し牛舎を新規取得。肥育牛約30頭・繁殖牛約50頭を飼育する。肥育牛70頭・繁殖牛130頭を目指し、規模拡大に意欲的だ。「JAの助成事業がなければ新たに始められなかった。指導員を増やし、出向く体制を強化してほしい」とJAに期待する。

JAさが畜産総合センターの堤誠一郎係長は「指導体制充実のため、畜産総合センターへ職員を集約した。これまで以上に現場へ出向き、農家と密接に関わっていく」と話した。



子牛の出荷時期について語る大串さん(左)と堤係長

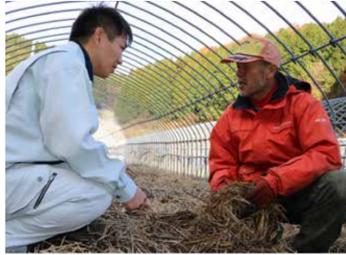
担い手が根付く環境を

中部地区×水田強さん

佐賀市富士町の水田強さん(64)は、1月から同町で始まるハウレンソウの新規就農者を育成する「トレーニングファーム事業」推進協議会の会長を務める。地域農業の振興や担い手の育成に取り組んできたが、今後は40年以上栽培を続けてきたハウレンソウで、JAや行政、地元農家らと次世代の担い手の育成に取り組む。

水田さんは「新規就農者がしっかりとこの地に根付き、育っていく環境をJAとともに作り上げていきたい」と期待を寄せる。

JAさが中部地区の森田大地指導員は「新規就農者は期待以上に不安が大きい。適時、適切な指導を心掛けていきたい」と話した。



熱い思いを語り合う水田さん(左)と森田指導員

高齢化支える策充実を

みどり地区×山口さん夫婦

太良町で露地ミカン約90㍏栽培する山口保彦さん(71)と澄子さん(69)夫妻。保彦さんが右肩に全治7カ月のけがを負い、今年はミカンの出荷ができないと諦めていた時、JAさがみどり地区が新たに始めた集荷支援制度を知った。制度を利用し、例年通りの出荷を実現した。

保彦さんは「制度があって本当に助かった。生産者の高齢化が進む中で、今後ますます、こういう支援が必要になってくると思う」と語った。

JA担当者は「生産者にとって頼れる生産支援を充実させ、産地維持にもつなげていきたい」と、今後も同様の支援を整備していく考えだ。



選果場職員(左)の集荷を見守る山口さん夫妻

担い手農家868人と対話

JAからつ×大場将夫さん

JAからつは常勤理事が管内の認定農業者を訪問し、JAへの要望を尋ねる取り組みを始めた。管内の認定農業者868人を訪ね、JA自己改革の進捗状況を説明。アンケートも行い、JAに対する要望を聞き集め、今後の自己改革や経営に反映させる。

個別訪問を受けた、唐津市浜玉町でハウスみかんやデコボン等を2.8㍏経営する大場将夫さん(60)は「役員と意見交換できる良い機会。直接話すことで思いを伝えやすい」と話す。

JAの堤武彦組合長は「農業者の真の声を聞くことができる。JA経営に反映するため対話を続けていく」と話す。



堤組合長(左)から説明を受ける大場さん

農家とともに

挑戦

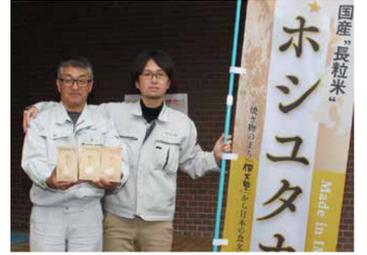
2020年東京五輪に照準

JA伊万里×金子友洋さん

JA伊万里二里支所青年部が中心となり6年前から栽培を始めた「ホシユタカ」。全国で唯一、品種登録されている長粒米だ。和・洋・中、何にでも合う食材として注目を集めている。

当初から栽培に関わる金子友洋さん(55)は「最初は20㍏から始めた。現在は若手盟友が中心となり、市内で4㍏作付するまで広がった」と話す。現在、一層の普及を目指し農業生産工程管理(JGAP)取得に取り組んでいる。

栽培指導するJA管農振興課の石戸勉係長は「2020年の東京オリンピックを視野に入れ、伊万里産の『国産長粒米』として広くPRしていきたい」と大きく夢を膨らませる。



「ホシユタカ」を広くPRする金子さん(左)と石戸係長

新作物栽培へ支援を

佐城地区×西寄さん夫婦

佐賀市大和町で86.23㍏のミカン園を経営している西寄晋広さん(34)と洋子さん(36)夫婦。青年就農給付金事業を活用し、夫婦で就農して3年目になる。

西寄さんは「両親や先輩のアドバイスを基に、より良い作物がとれるよう努力している。今後は地球温暖化に負けず品質を上げ、高齢化に備えて労力軽減も考えていきたい」と意気込む。温暖化に対応した新規作物を試験栽培したいと考えており、JAへは「栽培技術面でのサポートやアドバイスをお願いしたい」と期待する。

JAさが佐城地区の原口淳一指導員は「新規作物の栽培が成功するよう支援していきたい」と話した。



品質を確認しながら収穫する西寄夫妻(左)と原口指導員

加工用出荷で面積拡大

神埼地区×緒方さん夫婦

神埼町で小ネギを約27㍏栽培する緒方聖久さん(31)とまみさん(32)夫妻。「もうかる農業」を目指し、面積拡大を図っている。2017年度から、小ネギの傍ら無理なくできると加工用ダイコンの栽培にも挑戦。カット野菜を扱うJAさが富士町加工食品に出荷している。

小ネギは「規格に合わず廃棄している分も出荷でき、収量・面積ともに増やせる仕組みを部会やJAと一緒に作りたい」と意欲を見せた。

JAさが神埼地区の中島特秀指導員は「規格の見直しや加工用販路の拡大など販売面の強化で、若い農家の規模拡大を支援したい」と語った。



小ネギの生育を確認する緒方夫婦(左)と中島指導員

規格外野菜に販路を

東部地区×古澤章さん

鳥栖市で、米、麦、大豆、アスパラガス、ニガウリを栽培する古澤章さん(39)。JAさが富士町加工食品の第2工場新設に伴い、JAさが東部地区が推進する加工用野菜のダイコン栽培にいち早く手を挙げた。

古澤さんは「葉から根まで色々な用途に使えるので、加工用として興味があった」。JAへは「販路拡大、販売強化に取り組んでほしい。規格外や商品にならない野菜もカット野菜のようにあらゆる方法で販売してほしい」と期待を寄せた。

JAの上田耕司指導員は「計画出荷などに取り組み、多様な販路拡大に取り組んでいきたい」と語った。



採れたての大根について話す古澤章さんと上田指導員